

番号	地域名	こん談事項	こん談会開催時の質疑・回答内容等	市回答者	取組状況	取り組み状況の説明事項
1	西部地域	高齢化社会に伴う地域交通の確保について	<p>○各町のこん談事項について、再度説明(まちづくり推進部長)</p> <p>○西部地区住民アンケート結果について(まちづくり推進部長)</p> <p>・アンケート項目</p> <p>1(1).男女比 1(2).回答者年代別集計 1(3).同居家族</p> <p>2.普段の移動手段</p> <p>3.間2の移動手段をいつまで続けられそうか</p> <p>4.外出目的</p> <p>5.外出地域</p> <p>6.移送ボランティアの利用意思</p> <p>7.その他意見について</p> <p>8.ふるさとバス、京阪京都交通バスに対する意見</p>	まちづくり推進部長		
2	西部地域	高齢化社会に伴う地域交通の確保について	<p>○道路運送法による運送形態の分類について(まちづくり推進部長)</p> <p>・福祉有償運送について</p> <p>・利用対象者が要介護者等のみで、NPO等による障がい者や高齢者等の送迎サービス。 ⇒福祉車両や一般車両を使用し、基本は個別輸送</p> <p>・無償で許可・登録等が不要に分類されるもの</p> <p>・事業者・市町村が行う無料(シャトル)バス、無償ボランティアによる運送。 ⇒亀岡市では、車両の導入に対して1/2を補助している。</p> <p>・東別院町で実施しており、今現在週3回、1日1往復だが、地元自治会で運営している。 (東別院町でバス停から1km以上離れる地域があり、その対策で、交付要綱に基づき、補助金を支出している)</p>	まちづくり推進部長		
3	西部地域	高齢化社会に伴う地域交通の確保について	<p>○意見・回答</p> <p>●自治会:フリー乗降で、本梅～畑野(土ヶ畑)で限定しているのには理由があるのか。</p> <p>⇒亀岡市:バス停間が長い区間であるということ、また、京都交通時代にその区間で実績があるということ、手続的にも入りやすいということもあり、まずは当該区間を優先的に協議を進め、状況をみながらさらなる区間の拡大を考えております。</p>	まちづくり推進部長	①実施 ③検討	令和2年3月14日からふるさとバス畑野コースの「土ヶ畑～高芝」、畑野千代川コースの「広野～中野倉庫前」においてフリー乗降を開始しました。こん談会での回答のとおりです。
4	西部地域	高齢化社会に伴う地域交通の確保について	<p>●自治会:もし制限がなければいずれ別の区間でのフリー乗降ができれば、どちらかという効果があると思う。</p> <p>⇒亀岡市:先ほど申しましたように、運行委託しておりますバス会社と調整していますので、お伺いしたことも踏まえて今後調整、そのあたりの結果も報告しながら進めていきたいと思っております。</p>	まちづくり推進部長	①実施 ③検討	令和2年3月14日からふるさとバス畑野コースの「土ヶ畑～高芝」、畑野千代川コースの「広野～中野倉庫前」においてフリー乗降を開始しました。こん談会での回答のとおりです。
5	西部地域	高齢化社会に伴う地域交通の確保について	<p>●自治会:ボランティア輸送の補助金については、車両に対してではなく、乗せる人を介助(買い物の手伝い、病院の手続き等)するために補助金をいただくものと思っておりますが、そのあたりの見解はどうですか?</p> <p>⇒亀岡市:こちらで理解しているのも、有償とは、対価を取るか取らないかであると理解しています。そういった意味で、有償にする時は運輸局に許可なり、それに伴う講習が必要だと聞いていますので、承認されるものが有償でいいということではあります。その対価を取るか取らないかということでもありますので、先ほど言われた部分も運輸局にぶつける中で判断していければと思います。</p>	まちづくり推進部長	⑥その他	こん談会での回答のとおりです。

番号	地域名	こん談事項	こん談会開催時の質疑・回答内容等	市回答者	取組状況	取り組み状況の説明事項
6	西部地域	高齢化社会に伴う地域交通の確保について	<p>●自治会: ボランティア輸送が普及してくると、ふるさとバス(公共交通)がなくなるのではないかと？</p> <p>⇒亀岡市:                      ・ボランティア輸送があるからといって、ふるさとバスがなくなることはありませんし、亀岡市としてもそれは考えていません。                      ・行政としては、車を持たない人、また免許を返納する人も増加してくる中で、それでも生活できるよう、利便性をどう高めるかということが必要になると思います。ふるさとバスも朝の通勤・通学の時間帯は乗車率が高いが、昼間の時間帯には乗車率が低いので、そこを地域交通でまかなっていただければと思っています。                      ・各町ごとにやるというより、西部4町を一つのエリアとして運営していただきたいと思っています。</p>	市長 (まちづくり推進部)	⑥その他	こん談会での回答のとおりです。
7	西部地域	高齢化社会に伴う地域交通の確保について	<p>●亀岡市: ふるさとバスを西部地域でもっと便利よく本数を増やしてほしいという思いがありますが、それを増やすことは、費用対効果からいっても難しいと思っています。地域型の輸送交通を導入した方がより行政としても、少し公共交通の本数は減りますが、その分の費用を含めて補助し、運営していただくようなことができれば一番いいのではないかと考えている。そのためには、地域でそれを担っていく方を作っていくかなければいけません。問題は一つの町だけのマンパワーだけでは厳しいと思いますので、そういった意味では、西部地域全体の中で協力いただける方に参加をいただいてやっていくことができればよいと思っています。また有償・無償の話もありますが、一人暮らしで車がない方、また今後免許を返納したいと思っている方々が組織に参加して、会費を払って運営し、そこに行政が応援するというやり方もあると思います。そういうことができれば、今よりもこの地域で高齢者の方が住みやすい地域になるのではないかと思います。各4町が連携して、そういう風な仕組みを含めた中での取り組みにつながればこちらとしてはありがたいと思いますが、いかがでしょうか？</p> <p>⇒自治会:                      ・1町で運営するとなると、およそ2〜3人程しか確保できないと思うので難しいと感じるが、西部地域でやるならば、数十名規模にはなるかと思うので、運営するならば西部地域で行うのがいいと考える。                      ・公共交通が廃止される、または本数が減る等が決まらない段階では、住民も危機感みたいなものを感じれない状況であり、中々参加するほうに手をあげてもらえぬのではないかと心配はある。</p>	市長 (まちづくり推進部)	③検討 ⑥その他	こん談会での回答のとおりです。
8	西部地域	高齢化社会に伴う地域交通の確保について	<p>●自治会: フリー乗降はありがたいという思いはあるが、そもそもバス乗降場所に行くための手段に困っている方もいるのではないかと？バスの運行に合わせた、バスに乗るための手段、そこを取組めばバスの利用者は増えるのではないかと？</p> <p>⇒亀岡市: この意見及び運営に関しての仕組みも含めて4町で意見交換していただき、検討していただければありがたいと思います。</p>	市長 (まちづくり推進部)	⑥その他	こん談会での回答のとおりです。
9	西部地域	高齢化社会に伴う地域交通の確保について	<p>●自治会:                      ・西部地域でやるのは難しいように感じる。亀岡市全体として、利用する方、車を貸していただける方も含めて会員制という仕組みを作っていくのがよい方法ではないかと考える。                      ・トヨタとソフトバンクが提携したMaaS(マーズ)というものがあり、その言葉の中に自動運転化もあるが、自動運転による輸送に関しての問題点等があれば、調べるなりして教えていただきたいと思っている。</p> <p>⇒亀岡市: ご指摘されたものは、「モネ」というサービスだと思いますが、自動運転は画期的なサービスではありますが、現状、国土交通省の規制で、自動運転のものが公道を走れない規制があり、戦略特区みたいなものを設けて、特別に規制を解除した地域、豊田市等がそれに該当しますが、トヨタのおひざ元ということで可能となっているため、そういった所で実験的に行っています。自動運転で一番問題なのは、仮に事故が起こった時に、ロボットが悪いのか、ロボットを作った会社が悪いのか、あるいはロボットを動かす電波を配信している会社が悪いのか等、責任の所在が不明確なので、中々現実的ではないというのが現状です。行政的にハードルがあるとすれば、そもそも自動運転を公道で走らせるという規制がかなり強いので、そこを解決しないかぎりには自動運転の車が走る日が来るのは近い将来すぐ作れるかということ、厳しいかと思いません。またどの地域も戦略特区になれるかということそうではないので、そこもハードルが高いと感じます。</p>	仲山副市長 (まちづくり推進部)	⑥その他 ⑤困難	こん談会での回答のとおりです。

番号	地域名	こん談事項	こん談会開催時の質疑・回答内容等	市回答者	取組状況	取り組み状況の説明事項
10	西部地域	高齢化社会に伴う地域交通の確保について	○総括(亀岡市):本日は地域交通の話を西部4町で初めて一緒にさせていただきました。これはすぐにできるとは思っていませんが、この地域に人が住んでもらうために、交通インフラの中でのサービスをどう整えるか、これは地域にとっても大変大事なことですし、亀岡市としても大事なことです。すでに旭町ではこの5年の内にやりたいと手を挙げられていますし、そのために行政がどう応援できるかというのをこれからつめていくことになっておりますし、この西部地域においても今日をきっかけに今後、自治会長が集まる時等に話をする中で方向性を模索していただきたい。これは行政が押し付けることではありませんので、地域の選択の中でそういう道もあるということを認識して進めていただきたいと思います。やはり地域を守るためには、地域の皆様もご協力をいただかないとよくなっていかないと思いますので、今日をきっかけに西部地域で議論をしていただければありがたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。	市長 (まちづくり推進部)	③検討 ⑥その他	こん談会での回答のとおりです。
11	西部地域	半国山等、西部地域のにぎわい創出と活性化について	○各町のこん談事項について、再度説明(産業観光部長)	産業観光部長		
12	西部地域	半国山等、西部地域のにぎわい創出と活性化について	○産業観光部長の説明の補足(市長) ・西部地域の一番の中心的山であり、これをどう活かすかによって、西部地域の宝の山になると思っています。地域こん談会でも、畑野町、東本梅町、宮前町からのそれぞれのアプローチがあり、各学校の校歌にものっている山を地域として活かしていきながら、トレッキング、ハイキング含めて、ニーズが高まっている中で、この地域の魅力を、西部4町で発信できる取組みにつなげていければ一番いいのではないかとということが今日の議題の一つですが、ぜひとも各町が半国山に対するどういう思いを持っているか、それが波及していけば、ききょうの里にもつながっていくのではないかと思いますので、半国山を西部4町で盛り上げていく仕組みを今後作っていければいいと思っていますので、お願いしたいと思います。	市長 (産業観光部)		
13	西部地域	半国山等、西部地域のにぎわい創出と活性化について	○意見・回答 ●自治会: ・先日茨木市から夫婦が来られて半国山に登られたが、急に降りてこられたため話を聞いたのですが、昨年の大雨でハイキングコースが荒れていて、登ることができないとのことでした。明智光秀に係わる整備を先行して進められているということですが、昨年の豪雨で非常に荒れている中で、早急に整備していただければ非常にうれしく思っている。また、ボランティアグループを作り、そのボランティアグループでハイキングコースを含めて景観をよくするため、木の伐採等の活動をしているので、亀岡市でもご協力いただければ非常にうれしいと思う。 ・畑野町にも半国山へ登るコースがありますが、にぎわいの創出の観点から考えた時に、別の場所から登れば、るり溪にもいけるようなルートも考えられる。 ・宮川からもハイキングコースがありますが、昨年の災害により倒木がかなりあり、地元有志によって2回倒木の撤去を行った。 ・昨年から金輪時を通るルートを地元で整備した。 ・昔から案内看板はあるが、劣化等もありわかりづらくなっている。 ・半国山は4町すべてに登り口があり、半国山のすばらしさを地域の住民に知ってもらおう活動をして、その輪を西部4町で広げていきたいと考えている。  ⇒亀岡市: ・入り口が何カ所かあるということで、1つはサイン計画、道案内をすとか、入り口には専用の登山道の駐車場が必要だとか、人にきてもらうためには駐車場の整備や案内をするような導線やサイン、木の伐採等の整備が必要かと思っています。行政としても地元にやっていただけると非常にありがたいことですので、それを応援できることも含めて考えていかなければならないと思っています。 ・補助金を使って看板を作る等、連携して一つの枠組みを作ってもらいたいと思います。	市長 (産業観光部)	⑥その他	ハイキングコースの整備につきましては、亀岡市観光協会と協力し市内各コースを定期的に巡回し、倒木整理や道をならす等の作業を実施しています。 昨年の大雨や台風の影響により、市内の各ハイキングコースにおいても倒木等が発生しておりますので、順次ではありますが、地域の皆さまとともに整備を進めているところです。 今後も、安全にハイキングを楽しんでいただけるようコースの整備を行うとともに、魅力ある地域の観光情報を広くお知らせし、観光誘客を図ってまいります。

番号	地域名	こん談事項	こん談会開催時の質疑・回答内容等	市回答者	取組状況	取り組み状況の説明事項
14	西部地域	半国山等、西部地域のにぎわい創出と活性化について	○総括(亀岡市):半国山については、この地域の宝として、どのように活かしていけるか、魅力を発信していけるかが、一番大きな課題かと思えます。先ほども提案ありましたが、西部4町が足並みをそろえて取り組んでいただくのがいいと思えますし、そういった協議会等を作っていただき進めていただきたい。半国山をアピールすることは、西部地域をアピールするきっかけになるのではないかと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。	市長 (産業観光部)	⑥その他	こん談会での回答のとおりです。
15	西部地域	西部地域における学校規模適正化について	○亀岡市(教育部長):西部地域におけます学校規模適正化につきましては、それぞれの地域こん談会でテーマが出ていた訳ではございません。今回このテーマをあげさせていただいて、どの学校をいつにどうしようということをお示ししようということを考えているわけではございません。まずは、今現在の状況、過去からの流れ、そして今後どのようにしていくのかということを地域の皆様にも知っていただき、子供たちのよりよい環境のためにどのようなことを始めていけるのかと教育委員会としては考えていますのでよろしくお願ひします。 ○手元資料の説明 ・項目 1.亀岡市の人口の動向と推移 2.亀岡市内の児童生徒数及び学校数の動向と推移 3.育親中学校区内の学校別児童生徒数の動向 4.育親中学校区内の学校別児童生徒数及び学級数の推移	教育部長		
16	西部地域	西部地域における学校規模適正化について	○資料説明補足(市長):これにつきましては、推計値ですので、現在、移住・定住特区をとっていただき、それぞれがんばっていただいていますので、これよりも増えるということがあればいいと思っています。私個人の意見としては、基本的に学校は各町単位であるのがいいと思っています。しかし、現状を見てどうするのかということ、東本梅保育所は今、森の自然保育園ということでリニューアルする中で、さらに子供たちが集まってくるような取組も進めていますので、そういうことも含めて地元の意見を聞かせていただき、いまず結論が出るわけではなく、今後どのような形にするのかというのを検討していただければありがたいと思えます。一つの例としては、川東学園は、京都府初の義務教育学校になりました。そして今、1クラスずつ、6クラスありますが、来年は入学する1年生が40名ということで増えてまいりまして、それも1つの新しい学校にしたことによる効果であると思えます。川東保育園も今年入りたいという方が多く、全員受け入れられないという状況にあるのが、現状です。川東も西部地域と同様に高齢化は進んでいます、新たな子育て世代が移住してきているというのが、現状だと思えます。	市長 (教育部)		

番号	地域名	こん談事項	こん談会開催時の質疑・回答内容等	市回答者	取組状況	取り組み状況の説明事項
17	西部地域	西部地域における学校規模適正化について	<p>○意見・回答 ●自治会:学校の空いている教室を使って、親子教室等、有効利用ができるのではないかな？</p> <p>⇒亀岡市:学校施設については、体育館等は社会体育の活用等に利用いただいていますので、学校に入ること自体は可能になっています。ただ、教室を土、日に使っていただくということになりますと、施設全体を開けないと、教室に入っただけでない、また教室にはそれぞれ児童、生徒等の物も置かれた状態になっていますので、そういった物の管理ということも必要になることもあり、ただちに教室を土、日に開放することは検討しなければならないと思っています。ただ現在使われていない教室があることは把握しており、現在学校では一つのクラスを二クラスに分ける等、教室を十分に活用しながら、少人数で充実した教育を進める等の方法もとっています。ただ、そういう使い方をしてもまだ余裕のある学校もございますので、どのような活用ができるのかは地域の皆さまの声を聴きながら考えていきたいと思っています。</p>	教育部長	⑥その他	こん談会での回答のとおり、今後、地域の皆さまの声を聴く機会をつくっていききたいと考えています。
18	西部地域	西部地域における学校規模適正化について	<p>●自治会:子供が中学3年で育親中学に通っています。もう3年生で卒業しますが、小規模の学校は先生の目も行き届くのでいいところもあるのですが、競争心のような切磋琢磨できる環境にない。近い将来、統合というのはでてくると思いますが、亀岡市内、京都市内の高校にいくと生徒数が1,000人規模にはなってくるので、子供が圧倒されることもあると思う。統合というのは早いうちに考えたほうがいいと思っています。</p> <p>⇒亀岡市:今ありましたように、大規模校、小規模校、それぞれに特徴があり、小規模校は充実した教育ができる一方で、大規模校は切磋琢磨できる環境が与えられたり、あるいは、部活動一つとっても小規模校だと種目が限られる、大規模校だと種目も選べるし、チームメイトもたくさんあり、競争心が芽生える効果も生まれるということは感じています。それぞれのメリット、デメリットをうまく活かしながら今は教育が進められています。ただ、今もあったように、小学校から中学校、中学校から高校へ、高校から大学へと進学を考えていくと、一定程度の規模の中で切磋琢磨するような環境は必要だろうと考えています。その規模がどのような形がいいのか、どういう風にその環境を整えていくのかは地域の皆様方の声を聴きながら、教育委員会も一緒になって考えていきたいと思っています。</p>	教育部長	③検討	地域の皆さまの声を聴く機会を設けるために、昨年末から各自治会と協議を始め、来年度からどのような形で実施をしていくかについて、引き続き協議してまいります。
19	西部地域	西部地域における学校規模適正化について	<p>●自治会:複式学級を何年続けるか等で学校が統廃合となる判断基準等はあるのですか？</p> <p>⇒亀岡市:複式学級があるから、統廃合を行うというものではありません。</p>	教育部長	⑥その他	こん談会での回答のとおりです。
20	西部地域	西部地域における学校規模適正化について	<p>●自治会:小中一貫校にすれば人が増えるのではないかなという意見もありましたが、難しいと思っている。将来的には学校も選ばれる時代が来ると感じており、そうした時に特色ある学校が求められると思いますので、今後はそういった教育をしていってほしいと思っている。</p> <p>⇒亀岡市:大きな学校は子供たちの切磋琢磨という点では、大変よい環境だと思いますが、現状をみると減ってきていますし、一校で部活動チームが組めない等、合同チームを作らないといけないのが現状です。理想的な学級数がどの程度かといえば、やはり、各学年に3クラスあるのが理想的です。現在亀岡市は学力向上のため、小中学校が連携し、この夏にも先生と一緒に、研修会を行う等、1年生から9年生までを想定し、段階をおって指導していかなければならないと思っています。5年後、10年後を考えた時に子供たちの数は減ってくると思いますし、将来を見据えた中で今後、前向きに検討いただければありがたいと思いますのでよろしく申し上げます。</p>	教育長 (教育部)	③検討	地域の皆さまの声を聴く機会を設けるために、昨年末から各自治会と連携を図りどのような形で実施していくかを協議しているところです。

番号	地域名	こん談事項	こん談会開催時の質疑・回答内容等	市回答者	取組状況	取り組み状況の説明事項
21	西部地域	西部地域における学校規模適正化について	<p>●自治会: 現在は小学校の運動会も半日で終わるとか、中学校も以前は3チームあったのが2チームになったり等、さみしくなった。児童数が増えるのはあまり望めないと感じていますし、ある程度の中で学校生活を送るほうが良いと感じている。</p> <p>⇒亀岡市: 東別院、西別院小学校、別院中学校は合わせても70人程度の児童生徒数になっています。今まではそれぞれで運動会をしていましたが、昨年度から合同で運動会を行うようになり、地域からもよい取組だったとお声をいただいております。そのような事例もあります。</p>	教育部長	③検討	<p>修学旅行については、西部地域の3小学校は、既に合同で実施しているところです。また、その他の学校行事についても、合同でできるかどうか学校とも協議しているところです。</p>
22	西部地域	西部地域における学校規模適正化について	<p>○総括(市長): 亀岡市も2040年には6万6千人になると言われています。我々としてはそれをなるべく減らさないようにしたいと思っていますが、そこまで減るとなると、色々な意味で課題がでてきて子供たちの状況も変わると思います。そういうことを思う時にどうするべきかと考えるのですが、たとえば一度、小学校の運動会、社会見学、修学旅行等を合同でやってみる等、そういうことを含めた連携を考え、日々の授業では統一の少人数学級でしっかりやる。そういうスケールメリットを活かすようなこともやってもいいのかなと思いますので、一度地域としても考えていただきたいですし、また教育委員会も考えていかなければならないのですが、ただこれは教育委員会からやろうというのは大変難しい話であるため、地域の皆様で一定提案いただければ、それを受けて、早急な小中一貫とか統廃合ではなく、まずは連携授業というような活動をやっていければ、今後のことを考えていけるいい機会になるのではないかと思いますので、今日をきっかけに、西部4町で話をさせていただければありがたいと思います。</p>	市長 (教育部)		
23	西部地域	消防救急拠点について	○各町のこん談事項について、再度説明(総務部長)	総務部長		
24	西部地域	消防救急拠点について	<p>○意見・回答</p> <p>●自治会: 西部4町では数年前から消防拠点施設(出張所)についてお願いしており、西部地域からでは、道路はよくなってきていますが、それでも時間が25分程度かかるので、西部地域に消防拠点施設(出張所)ができると時間短縮が見込まれると思う。本梅町には誘致できる場所があるため、候補地にしてほしい思いがありますが、これについては他の地域でも色々な意見があると思いますので、できれば時間はかかると思いますが、まずは場所の選定等も進めていただきたいと思っています。</p> <p>⇒亀岡市: 南丹市、京丹波町も組合の組織になりますので、そういった全体のバランスも一つ必要になるかと思いますが、今聞かせていただいた場所も候補地として検討できればと思います。</p>	総務部長	⑥その他	こん談会での回答のとおりです。
25	西部地域	消防救急拠点について	<p>○総括(市長): 西部地域の状況を把握しながら取組む中で、救急対応は必要であると思いますし、災害対応における役割については大きいと思っています。特に病院を含めて、火災現場の到着時間となれば、最低でも25分から30分以上かかりますので、全国平均から比べても長い距離になるということも含めて、西部地域に消防拠点施設(出張所)が必要だと思っていますので、京都中部広域消防組合に対して、その理解を求める形で提案しているところです。場所については、先ほど提案いただきましたが、そこも含めて、なるべく早くそれぞれの所に行ける候補地をさがしていかなければならないと思います。また地元とも協議させていただきたいと思いますのでよろしく願います。</p>	市長 (総務部)	⑥その他	こん談会での回答のとおりです。